

学校再開から1か月と少しが過ぎた。例年だとゴールデンウィークが終わったあたりである。いわゆる「五月病」が心配される頃である。

子供たちや教職員も学校再開当初のピリピリした緊張感は見えなくなってきたが、腹痛や頭痛等の体調不良を訴える割合が多いように思う。梅雨時のジメジメした気候のせいもあるのだろうが、私は子供も教員も「コロナ疲れ」「コロナ・ストレス」の影響を少なからず受けていると考えている。

そうした精神症状が、体調不良のように「外」に出るのは対応しようがあるが、何となく、知らず知らずに気分が落ち込んだり、以前は楽しめたことが楽しめなかつたりなど「内」に出る場合は、やっかいである。一人一人をさらに細やかに観察したい。

さて、教育委員会の指導もいただき、懸案となっていた「修学旅行」「蔵王合宿」「校外学習」を実施する方向で動いている。修学旅行先の会津若松市は首都圏への旅行を避けた小・中学校が殺到し、例年の倍近い問い合わせだそうだ。長瀨小学校では万一に備え、6月初旬にバス台数やホテルの部屋数の調整・仮予約を済ませている。今後、保護者の皆さんと協議して、詰めていきたい。また、国の「Go-Toキャンペーン事業補助金」が適用されれば、家庭の負担も軽減されるので、現在調査中である。

なにより、実施可能を伝えたときの6年生の「心の底からの笑顔」を見た、という担任の言葉に胸が熱くなった。第2波がこないことを祈るばかりだ。